

オウトウ新品種候補 'おうとう青森1号' の特性

内 藤 誠・久 保 隆・中川原 郁 也

(青森県畑作園芸試験場)

Characteristics of 'OUTOU AOMORI 1', a Candidate for New Sweet Cherry Variety

Makoto NAITO, Takashi KUBO and Ikuya NAKAGAWARA

(Aomori Field Crops and Horticultural Experiment Station)

1 は じ め に

オウトウの品種の多くは、収穫期の降雨により裂果が多発し、商品価値が著しく低下する。そのため、オウトウの栽培においては、裂果防止のための雨よけ施設の導入が必須となっている。

これまでの調査により、'オウトウ青森1号' は、食味が良好であり、収穫期の降雨による裂果が非常に少ない系統であることが明らかになったので、その概要について報告する。

2 来歴及び育成経過

(1) 来歴

'おうとう青森1号' は1973年に青森県畑作園芸試験場で'ナポレオン' に'マートン・グローリー' を交配して育成された。

(2) 育成経過

1973年に'ナポレオン' 795花に'マートン・グローリー' を交配し、391個の種子を獲得した。1974年にこの種子を播種、46本の実生を獲得した。このうち、生存する32本の実生を1975年11月に苗木養成ほ場に定植した。その後、1978年4月に挿し木で養成したアオバザクラに、これらの実生を接ぎ木し、同年12月に苗木養成ほ場に定植した。初結実年は不明であるが、その後の調査により1995年に最終選抜に至り、1997年3月に'Jのしずく' として種苗法に基づき品種登録申請をした。

3 特 性 の 概 要

(1) 樹性

樹姿は開張性、樹の大きさ、枝梢の太さは中程度であり、枝の発生も多い。樹勢及び節間長は'佐藤錦' と同程度である。葉の大きさは中位、形は短楕円で、蜜腺の形は腎臓形である。花芽の着生は良好で、豊産性である。

(2) 果実(表1)

果形は短心臓形、大きさは約7gで'佐藤錦' より大きい。果皮色は濃赤で、着色は良好である。果肉は乳白色で、肉質は軟らかい。果汁が多く、屈折計示度は平均14.8%、リンゴ酸含量は平均0.58%である。食味は甘酸適和で良好であり、'佐藤錦' に比べやや酸味が多い。

表1 果実品質及び収穫期

系 統 名	年 次	果 重 (g)	糖 度 (%)	酸 度 (%)	収 穫 開始日
おうとう 青森1号	1988	7.5	14.6	0.43	6.29
	1989	7.8	14.0	0.59	6.29
	1990	7.3	14.4	0.41	6.30
	1992	6.1	16.5	0.63	6.30
	1993	7.1	16.9	0.67	7.5
	1994	7.9	14.9	0.84	7.1
	1995	—	14.3	0.45	6.27
	1996	7.5	11.6	0.49	7.10
	1997	6.1	16.3	0.70	7.3
	平均	7.2	14.8	0.58	7.2
佐 藤 錦	1988	6.5	14.1	0.39	6.21
	1989	6.2	15.2	0.30	6.21
	1990	5.8	14.0	0.47	6.20
	1992	6.3	15.7	0.54	6.27
	1993	5.5	18.5	0.71	7.5
	1994	5.8	13.3	0.49	6.24
	1995	7.6	14.3	0.48	6.27
	1996	6.0	12.0	0.45	7.8
	1997	5.6	16.2	0.62	7.2
	平均	6.1	14.8	0.49	6.28

注. 糖度は屈折計示度, 酸度はリンゴ酸含量である。

表2 開花期

系 統 名	年 次	開 花 日	満 開 日	落 花 日
おうとう 青森1号	1993	5.8	5.11	5.20
	1994	5.6	5.8	5.14
	1996	5.10	5.14	5.24
佐 藤 錦	1993	5.8	5.10	5.20
	1994	5.4	5.7	5.16
	1996	5.8	5.14	5.22

表3 裂果率

年 次	系 統 名	裂 果 率 (%)
1995	おうとう青森1号	14.3
	佐 藤 錦	72.2
1996	おうとう青森1号	17.7
	佐 藤 錦	71.3
	北 光	52.3

注. 雨よけ被覆なし。

表4 室温での日持ち性 (1995年)

系 統 名	商品果率 (%)			
	0日	5日後	7日後	10日後
おうとう青森1号	100	68	39	3
佐 藤 錦	100	88	73	39

注. 温度は20~26℃, 湿度は80%前後で推移した。

表5 交雑和合性 (1997年)

系 統 名	結 実 率 (%)	
	おうとう青森1号 を受粉した場合	おうとう青森1号 に受粉した場合
佐 藤 錦	0.0	5.1
南 陽	0.8	3.6
サ ミ ッ ト	67.7	61.4
ナ ボ レ オ ン	52.0	45.7
北 光	68.9	47.2
香 夏 錦	85.6	47.5
おうとう青森1号	17.1 (0.8)	—

注. ()内は1996年のものである。

(3) 開花期 (表2)

開花始めは5月上旬 (育成地: 青森県三戸郡五戸町) であり, 開花期は '佐藤錦' とほぼ同時期である。

(4) 収穫期 (表1, 2)

収穫期は '佐藤錦' よりやや遅く, 6月下旬から7月上旬頃 (育成地) であり, 満開日から収穫始めまでの日数は51~55日程度である。

(5) 裂果性 (表3)

収穫期の降雨による裂果は, '佐藤錦' や '北光' よりも少なく, 耐裂果性に優れる。

(6) 日持ち性 (表4)

室温で放置した場合の日持ち性は '佐藤錦' よりも劣り, 果梗の萎凋や褐変, 果肉の軟化, 果皮の萎凋が著しい。

(7) 交雑和合性 (表5)

自家和合性は低い。'ナボレオン' '香夏錦' '北光' 'サミット' とは交雑和合性を有し結実率が高いが, '佐藤錦' 及び '南陽' との交雑では結実率が低く, 交雑不和合と思われる。

4 ま と め

'おうとう青森1号' は, 収穫期の降雨による裂果が非常に少なく, 雨よけ施設が無くても十分栽培が可能であることから, 本種の導入によりコストの低減及び作業の省力化が可能となる。

一方, 果肉が柔らかく日持ち性が短いことから, 収穫後の果実の取り扱いには注意が必要である。